

【この時期の管理ポイント】

- 近年、アカスジカスミカメの発生が多くなり、コシヒカリ等に斑点米を多く発生させています。今年も多めの発生です。まずは、畦畔・農道の草刈りを徹底し生息数を減らしましょう！
- 中干し後は、間断灌水や飽水管理により、根の健全な発育を促し、足腰(根・茎)強化を図って、気象変動(猛暑や強風)に負けない丈夫な稲づくりを目指しましょう！
- 稲体を丈夫にし、登熟を高めるため、ケイ酸質資材の施用(追肥)を積極的に行いましょう！
- 穂肥は穂肥診断により、適期に施用しましょう。一発タイプでも、葉色低下の場合追加穂肥を。

1 6月21日現在の水稻生育状況 (ほ場差は大きいが生育は概ね平年並)

(1) 5月後半(16日~31日)の日照時間は平年の半分以下となり、茎数の確保が遅れましたが、6月は晴天が続き、現在は草丈、葉数とも概ね平年並、茎数は平年並~やや少の生育となっています。

(2) **現在(6/21)の生育状況**
草丈：並 茎数：並~やや少ない(ほ場格差大きい) 葉数：並 葉色：並

表1 水稻生育状況(6月21日現在)

品種名	地域名		田植日	草丈(cm)			茎数(本/m)			葉数(L)			葉色(SPAD)		
				本年値	前年値	比(%)	本年値	前年値	比(%)	本年値	前年値	差	本年値	前年値	差
コシヒカリ	水原	下条	5/11	40	47	85%	332	462	72%	9.2	9.4	-0.2	39.0	41.1	-2.1
	京ヶ瀬	京ヶ島	5/4	41	42	98%	456	544	84%	9.0	9.1	-0.1	41.1	40.4	+0.7
	安田	嶋瀬	5/4	47	46	102%	438	391	112%	9.6	9.5	+0.1	39.5	43.0	-3.5
	笹神	七浦	5/3	44	43	102%	509	472	108%	9.9	9.1	+0.8	39.9	39.8	+0.1
	笹神	沖	5/4	36	44	82%	291	427	68%	8.5	9.3	-0.8	39.8	38.5	+1.3
こしいぶき	水原	中湯	5/9	40	46	87%	518	545	95%	9.5	9.3	0.2	45.6	43.5	+2.1
	京ヶ瀬	田山	5/4	39	40	98%	479	436	110%	8.8	9.4	-0.6	42.1	42.4	-0.3
	安田	籠田	5/8	35	38	92%	365	391	93%	9.0	9.5	-0.5	39.7	43.6	-3.9

2 中干し後~穂肥までの管理 (溝切り・飽水管理・ケイ酸質資材の積極的な施用)

6月17日発表の北陸地方の1ヶ月予報では、天候は曇りや雨の日が多い見込み。平均気温は平年並~やや高め、日照時間、降水量はほぼ平年並の予想です。長雨や高温、ダシ風など気象変動に負けない技術対策が必須となっていますので、下記の対策を参考に実践し、気象変動に負けない稲づくりを徹底しましょう。

(1) **溝切りは必ず実施しましょう**

- ・ 迅速な水の供給と排水、濁水時の効率的な用水利用を図るため、溝切りは必ず行いましょう。
- ・ 中干し後は、飽水管理や間断灌水(浅水で湛水→足あとに水が残っているくらいまで減水→再び浅水湛水)を継続しましょう。
- ・ ダシ風が予想される場合は早めに入水し、水利用が集中しないよう早めに対応しましょう。

(2) **ケイ酸質資材の積極追肥で登熟向上を図りましょう。**

- ・ 稲は、出穂40日前頃から出穂期にかけて、ケイ酸を最も多く吸収します。このため、出穂40~35日前のケイ酸追肥は丈夫な稲づくりとともに登熟向上に効果的です、積極的に施用しましょう。

表2 主なケイ酸質資材の施用例

資材名	施用時期	施用量(kg/10a)
けい酸加里Pに734	出穂35~40日前	20~40
マルチサポート2号	出穂40日前	20~40
ミネラル三味	出穂20~40日前	15~30

★ケイ酸の効果

- ・ 受光態勢が良くなり登熟を高めます。
- ・ 根の機能を高め、根腐れ防止や吸水力等を高めます。
- ・ 高温時、葉面温度の上昇を抑え光合成能力の低下を防止します。
- ・ 茎葉が丈夫になり病害虫に対する抵抗力が強まります。

3 穂肥施用のポイント 出穂は、概ね「平年並」を予想(連休植えを想定)

表3

品種名	幼穂形成期	出穂期	穂肥窒素量(kg/10a)	穂肥時期			
				1回目		2回目	
つきあかり	7/5	7/27	4~5	7/2 (-25)	~ 7/4 (-23)	7/13 (-14)	
こしいぶき	7/6	7/28	2~3	7/5 (-23)	~ 7/8 (-20)	7/14 (-14)	
コシヒカリ	7/15	8/6	1~3	7/19 (-18)	~ 7/22 (-15)	7/27 (-10)	
新之助	7/23	8/14	1~2	7/25 (-20)	~ 7/27 (-18)	8/2 (-12)	~ 8/4 (-10)
わたぼうし	7/4	7/26	3~4	7/3 (-23)	~ 7/6 (-20)	7/14 (-12)	~ 7/16 (-10)
こがねもち	7/10	8/1	1~3	7/14 (-18)	~ 7/17 (-15)	7/22 (-10)	

※幼穂形成期：幼穂長1mm以上の穂が全体の80%以上となった時(出穂23~22日前)

(1) 6月21日現在の生育は、5月後半の低温や日照不足、風による葉傷みの影響により、特に茎数確保にほ場間差が大きくなりました。6月に入り、高温、多照により生育は回復し、概ね「平年並」となっています。出穂期は、6月21日現在概ね「平年並」を予想しています。出穂期は、今後の天候により変動しますので、当面の「めやす」としてください。

(2) 穂肥の施用に当たっては、**最新情報を確認**するとともに、必ず生育診断を行いましょう。

(3) 特に極早生品種は、施用時期が早いので、1回目の穂肥が適期に施用できるよう準備しておきましょう。

(4) 穂肥に使用する肥料の種類、施肥体系による使用時期や施用量に注意しましょう。(下表)

表4 肥料の種類及び施肥体系別穂肥施用のめやす(コシヒカリ)

施肥体系	肥料の種類	出穂前日数				
		30日前	25日前	18~15日前	10日前	3日前
分施	化学肥料	-	-	1回目	2回目	3回目 ★葉色32(葉色板3.9)以下の場合のみN1.0kg
	有機質肥料					
	有機由来N:50%	-	1回目	2回目	3回目 ★葉色32(葉色板3.9)以下の場合のみN1.0kg	-
	有機由来N:100%	1回目	-	2回目	-	
基肥一発	化学肥料	-	追肥 ★葉色32(葉色板3.9)以下の場合のみN1.0kg			

4 カメムシ類による斑点米発生防止対策を徹底しましょう！

～越冬成虫の発生は5月末から確認されており、今年も多発生が予想されます～

昨年は、早生品種だけでなく、コシヒカリも斑点米で格落ちする米が多発生しました。今年度も、昨年同様が予想されますので、下記の対策を徹底しましょう。

(1) 畦畔・農道等の草刈りの徹底しましょう！

カメムシの生息地となる農道畦畔等の草刈りを徹底し、カメムシの生息数を減らしましょう。特に「穂」の出るイネ科雑草は、穂を出させないようにこまめに草刈りを実施しましょう。

※草刈り重点推進期間：第2回目：7月9日～7月18日

(2) 水田内の雑草防除も行いましょう！

水田内に生えている、ヒエ、ホタルイ、スズメノテッポウなど「穂」をつける雑草はカメムシの生息場所となります。除草剤等でとりこぼした水田内雑草は早めに除去しておきましょう。

(3) 早生品種は2回防除、多発生地域では、コシヒカリも2回防除を！

無人ヘリによる共同防除は、コシヒカリの出穂期に合わせた1回防除となっています。出穂期の早い早生品種では防除適期からずれてしまうため、個人防除での対応が必要です。出穂期を基準にした適期防除を実施しましょう。

早生品種：共同防除前（個人防除）+共同防除、コシヒカリ：共同防除+追加防除の体系が基本となります。

7月が日照不足となった場合、籾の発育が不良となり、稲の登熟が進むと籾殻の縫合部が離れる「割れ籾」が起こりやすくなります。割れ籾が多くなるとカメムシの被害を受けやすくなり、斑点米が発生してしまいます。防除の徹底により被害の軽減を図りましょう。

※防除適期

ア 粉剤の場合

1回目：出穂期の3日後～出穂期の10日後 2回目：1回目の防除から7日～10日後

イ 粒剤の場合

出穂期～出穂期の7日後

○ 阿賀野市で発生が多いカメムシ類



アカスジカスミカメ



アカヒゲホソミドリカスミカメ



オオトゲシラホシカメムシ

5 いもち病をはじめその他の病害虫の発生にも注意！

・葉いもち：昨年は「こしいぶき」や「新之助」などで発病がありました。発病しやすい「新之助」や「わたぼうし」などは予防を徹底しましょう。

・ニカメイチュウ：阿賀野市ではスポット的に発生がみられています。一世代の発生に注意してほ場を見回ってください。

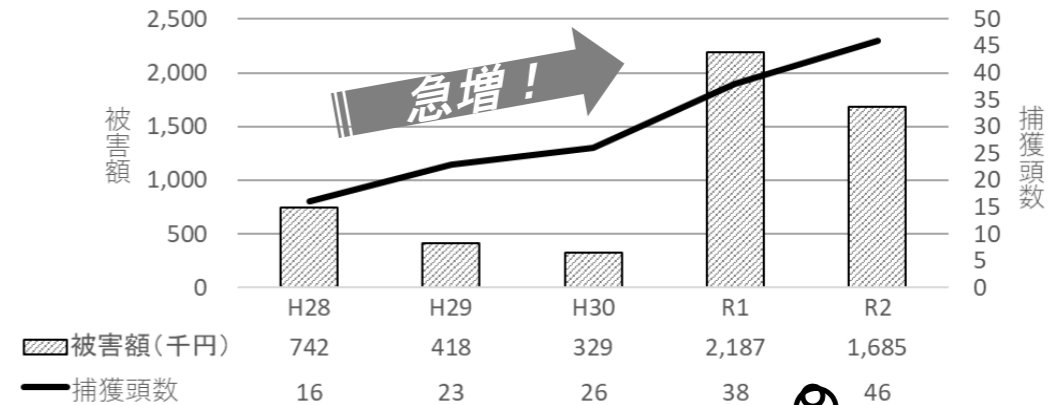
・イナゴ：山沿いを中心に近年多発生しています。密度が高い場合防除を行いましょう。

・ツマグロヨコバイ：ここ2年ほど阿賀野市の各地で多発生がありました。今年も多発生の可能性がありますので、特に晩生品種注意してください。

有害鳥獣対策について (イノシシ、サル)



～有害鳥獣による被害の現状～



・有害鳥獣の出没件数や農作物被害は、令和元年以降急増しています。

・生息する頭数が増加していると考えられるため、有害鳥獣を近づけない対策が必要です。

過去2年間で被害が多い地域
 笹神 (折居・金屋・大室)
 安田 (小松・都辺田)

Point! 有害鳥獣を近づけないために

農地や集落には、有害鳥獣にとっておいしいエサが豊富にあります。地域の環境整備を通じて被害の軽減を図ることが出来ます。

- ①里山の草刈りや間伐を行い、見通しの良い状況を維持しましょう。
- ②集落周辺の茂みや耕作放棄地を刈払い、緩衝帯を確保しましょう。
- ③野菜くずや果実等、エサになりそうな物は放置しないようにしましょう。

阿賀野市では、鳥獣対策協議会や実施隊、猟友会と連携してパトロールや罠の設置などに取り組んでいますが、有害鳥獣の被害防止には地域の皆様による取組が不可欠です。被害の現状と集落の課題を地域で共有いただき、被害の軽減にむけた取組のご協力を、よろしくお願いいたします。

阿賀野市役所農林課 農林整備係 問い合わせ：0250-61-2478

阿賀野市のホームページからもご覧いただけます！

阿賀野市

農業技術情報

検索

➡

もしくは、二次元コードを読み取ってください。